



「こだわらない」と「あきらめが早い」
のはチョツとちがう

「サッパリとしていて、こだわらない性格だね」と言われると、何となく誉められているようでうれしい気がする。

しかし「サッパリしているけど、あきらめが早い」と言われると、もう少し粘らなくてはと思ってしまう。

かといって、いつまでもあきらめず、こだわり続けていると「しつこい性格、自己中心的なエゴイスト」と言われてしまう。

学生の頃からエゴイストと言われるのが非常に嫌だった。そういえばよく似た言葉で、ナルシストと言うのもあるが、これは嫌と思わないから不思議だ。(エゴイストとナルシストが自分の中でどう違うのか、今度じっくり考えてみよう)

自分と考えや趣味が似た連中と遊んでいれば、意見もあまり違わないから対立することもなく、相手にエゴイストだと言われる恐れもない。私にとって「気が合う友人」というのは、エゴイストと言われない為の「安心できる友人」という意味だったように思う。

しかし社会に出ると、そうはいかない。まわりに合わせてばかりだと「無能」と言われるし、まわりからはみ出すと「協調性がない」と言われる。

社会に出て間もない頃就職探して、小さな会社の面接に行って言い争いになったことがある。相手の人が言ったのは至極まっとうな事で、始業時間に遅刻しないようにということだった。それに対し私は仕事が忙しい時なら遅刻はしないが、やることもないのに時間に縛られるのは嫌です、と反発していた。相手はびっくりしていたが、それ以上に驚いていたのは私を紹介して一緒に連れて行ってくれた、私の妹だった。何

を訳の分からない事を言い出すのか、気でも違ったのではないかと目を丸くして私を見ていた。

なぜか相手はとても太っ腹で採用してくれて、今度は私が驚いた。

私は何にこだわっていたのだろう。今考えれば不思議な気もするが、私なりに納得できる部分もある。「私」が「規則」より下に思えて嫌だったのだと思う。

社会に出て間もなく、自分の人生の意味も分からず、本当に大切にしたいものもわからない、そんな時に私がこだわったのは、朝の遅刻の良し悪しであった。

いろんな趣味にこだわる人もいれば、服やカバン、家、食事、晩酌、スポーツなどにこだわる人もいる。また自分の勝ち負けや正しさに妙にこだわる人もいる。自分が楽しくてこだわっているうちはいいが、苦しまみれにこだわり始めると、まわりにも迷惑をかけることになる。

自分にとって、本当に重要なことが何かを知っていれば、こだわらなくていい部分は多い。重要なことが見えていないと、不思議なことに、あれもこれもと欲張って、すべてにこだわりたくなる。

また、自分や自分たちに重要なことを共有するには、時間がかかることもある。

時間がかかってもやり遂げる、時間に耐えても進めて行くというのは、実は一番大変で重要なことのようにも思える。

「あきらめ」というのは結局のところ、時間が待てない、時間に耐えることができなくて、自分のやりたいことから逃げるということではないだろうか。あきらめが早くて得することは殆どない。

唯一いいことがあるとすれば、あきらめて時間に耐えていくこと、すぐには成就しないものだとかあきらめて、毎日を機嫌よく生きていくことくらいではないだろうか。

文具にこだわる天才哲人 上村慎二郎